

[36] ベナン

1. ベナンの概要と開発課題

(1) 概要

(イ) 1972年、5度目のクーデターによりケレク政権（1972～1991年）がマルクス・レーニン主義に基づく社会主義を国是として成立し、1975年に国名をベナン人民共和国に変更した。以後、穏健で現実的な政策により安定を維持するが、経済状況の悪化に1980年代後半の東欧の激動が重なり、マルクス・レーニン主義を放棄した。1991年に元世銀理事のソグロ氏が大統領に選出され、民主的な国家機構の整備が進められたが、社会的負担の増大に対する国民の不満から、1996年の大統領選で、ケレク氏が大統領に返り咲く結果となった。2001年の大統領選で再選されたケレク大統領は、民主化と経済構造調整を引き続き推進した。2006年の大統領選では前西アフリカ開発銀行総裁のボニ・ヤイ氏が初選出され、経済発展への期待が高まっている。

当面の外交上の課題は、IMF、世界銀行との協調により構造調整を引き続き推進すること、及び援助獲得を目的とした先進諸国との関係を強化することである。また、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS：Economic Community of West African States）、協商理事会（Conseil de l'Entente）を通じた地域協力の強化も課題として挙げることができる。

(ロ) 経済を概況すると、農業部門が労働人口の50%以上、GDPの約5分の2を占めており、農業依存型の経済である。主要輸出農産品は綿花である。同国の経済改革努力に対する援助国・機関の評価は高く、2005年の実質GDP成長率は3.5%、消費者物価インフレ率は5.5%と、インフレ率の増加が若干気になる結果となっている。

(2) 「貧困削減戦略文書（PRSP）」

ベナン政府は、PRSPを2002年12月に策定し、その中で、(イ)中期的なマクロ経済フレームワークの強化、(ロ)人的資源開発と環境整備、(ハ)グッド・ガバナンスと組織能力強化、(ニ)持続可能な雇用の促進と貧困層の意志決定や生産過程への参加を柱とし、現在その具体的実施に努めている。

また、2006年4月、ヤイ大統領は新政権発足後「100日間行動計画」を提唱し、貧困対策として緊急プログラム（農業の近代化、エネルギー等）の実施を重視している。

表-1 主要経済指標等

指 標		2004年	1990年
人 口	(百万人)	8.2	5.2
出生時の平均余命	(年)	55	53
G N I	総 額 (百万ドル)	4,053	1,806
	一人あたり (ドル)	450	330
経済成長率	(%)	2.7	3.2
経常収支	(百万ドル)	-	-18
失 業 率	(%)	-	-
対外債務残高	(百万ドル)	1,916	1,292
貿 易 額 ^(注1)	輸 出 (百万ドル)	-	363.86
	輸 入 (百万ドル)	-	453.95
	貿易収支 (百万ドル)	-	-90.09
政府予算規模 (歳入)	(CFAフラン)	-	-
財政収支	(CFAフラン)	-	-
債務返済比率 (DSR)	(対GNI比, %)	1.6	2.1
財政収支	(対GDP比, %)	-	-
債務	(対GNI比, %)	23.6	-
債務残高	(対輸出比, %)	113.1	-
教育への公的支出割合	(対GDP比, %)	-	-
保健医療への公的支出割合	(対GDP比, %)	-	-
軍事支出割合	(対GDP比, %)	-	1.8
援助受取総額	(支出純額百万ドル)	378.0	268.0
面 積	(1000km ²) ^(注2)	113	
分 類	D A C	後発開発途上国 (LDC)	
	世界銀行等	IDA融資適格国、かつIBRD融資適格国 (償還期間20年) /HIPC	
貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況		PRSP最終版策定済 (2003年3月)	
その他の重要な開発計画等		-	

注) 1. 貿易額について、輸出入いずれもFOB価額。

2. 面積については“Surface Area”の値 (湖沼等を含む) を示している。

表-2 我が国との関係

指 標		
貿易額 (2005年)	対日輸出 (百万円)	6.5
	対日輸入 (百万円)	2,108.3
	対日収支 (百万円)	-2,101.8
我が国による直接投資	(百万ドル)	-
進出日本企業数	(2005年11月現在)	-
ベナンに在留する日本人数	(人)	22
	(2005年10月1日現在)	
日本に在留するベナン人数	(人)	24
	(2005年12月31日現在)	

ベナン

表-3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	30.9 (1990-2004年)	
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	7.4 (2003年)	
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	23 (1996-2004年)	
普遍的初等教育の達成	成人 (15歳以上) 識字率 (%)	34.7 (2004年)	26.4
	初等教育就学率 (%)	83 (2004年)	41 (1991年)
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率 (初等教育)	0.78 (2004年)	
	女性識字率の男性に対する比率 (15~24歳) (%)	56 (2004年)	
幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	90 (2004年)	149 (1970年)
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	152 (2004年)	252 (1970年)
妊産婦の健康改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	850 (2000年)	
HIV/AIDS、マラリア、その他の疾患の蔓延防止	成人 (15~49歳) のエイズ感染率 ^(注1) (%)	1.8[1.2-2.5] (2005年)	
	結核患者数 (10万人あたり)	142 (2004年)	
	マラリア患者数 ^(注2) (10万人あたり)	10,697 (1997年)	
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	67 (2004年)	63
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	33 (2004年)	12
開発のためのグローバルパートナーシップの確保	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	1.6 (2004年)	2.1
人間開発指数 (HDI)		0.428 (2004年)	0.372

注) 1. []内は範囲推計値。

2. マラリア患者数についてはHDR2006に掲載されていないため、HDR2005を参照。

2. ベナンに対するODAの考え方

(1) ベナンに対するODAの意義

我が国は、PRSPに基づく同国の積極的な民主化及び経済改革努力を評価しており、こうしたオーナーシップに基づいた改革を支援することは、我が国が進めるアフリカ開発会議 (TICAD : Tokyo International Conference on African Development) プロセスの中でも重視されている。また同国の一人あたりのGNIは、450ドル (2004年) であるなど、依然として後発開発途上国 (LDC : Least Developed Countries) に留まっており、最貧国の一つである同国に対する支援は、我が国のODA大綱にも謳われている「貧困削減」の観点からも重要である。

また、同国は西アフリカの主要産業の一つである綿花の産出国であるが、近年の欧米諸国の国内綿花農家に対する補助金供与等に起因する市場価格の変動により、大きな経済的打撃を受けていることから、ブルキナファソ、チャド、マリとの4か国と共に、公正な市場を求めて綿花イニシアティブを推進している。我が国が、同国の産業振興、経済成長を通じた貧困削減のために、同イニシアティブを支持すること、また、同国が開発と貿易に一貫して取り組む観点からも、同国への支援は重要である。

(2) ベナンに対するODAの基本方針

我が国は、ベナンの貧困削減努力を支援するため、教育、水供給、衛生、保健・医療等の基礎生活分野を中心とした無償資金協力及び水産、農業分野等での研修員受入、専門家派遣、開発調査等の技術協力のほか、慢性的な食糧不足が深刻である同国に対し、食糧援助、食糧増産援助、同国民にとって海産物が重要な動物性蛋白質源となっていることから、水産分野での無償資金協力を実施している。さらに、同国の貧困削減の構造調整改善を支援するためのノン・プロジェクト無償資金協力を2000年度までに合計41億円供与した。また、人的資源分野等での研修員受入、水産分野での専門家派遣を実施しているほか、2003年7月には青年海外協力隊派遣取極の署名がなされ、2005年には、第一次対ベナン協力隊員が活動を開始した。2006年7月1日現在、16名の隊員が活動している。

(3) 重点分野

同国の貧困状況にかんがみ、直接地域住民の生活改善に貢献するような基礎生活分野への支援を重視し、教育、水、保健分野を重点分野としてきている。また、今後も同国の主要産業である漁業振興のため、漁港設備などの水産分野や農業分野での協力を検討していく。

3. ベナンに対する2005年度ODA実績

(1) 総論

2005年度のベナンに対する無償資金協力は9.92億円（交換公文ベース）、技術協力は2.51億円（JICA経費実績ベース）であった。2005年度までの援助実績は、円借款37.62億円、債務免除約37.69億円、無償資金協力257.46億円（以上、交換公文ベース）、技術協力26.11億円（JICA経費実績ベース）である。

(2) 無償資金協力

慢性的な食糧不足にかんがみ、米の購入資金として食糧援助（2.50億円）を実施したほか、ラトー県、ウエメ県の貧困農民を対象に肥料の販売を行うことを目的に、肥料の購入に必要な資金を供与する貧困農民支援（1.40億円）を実施した。水分野では安全な水の確保が困難な地方農村部において、給水施設建設・既存井戸の改修等を行う「第五次村落給水計画（第2期）」（6.02億円）を実施した。

(3) 技術協力

2005年は、水産、人的資源、行政、保健医療等の分野で34名の研修員受入を実施した。2004年度より青年海外協力隊員の派遣を開始し、2005年は8名の青年海外協力隊を派遣した。コトヌに本部移転した西アフリカ稲作開発協会（WARDA：West Africa Rice Development Association）へ「栽培」、「種子生産」の専門家を2名派遣しており、NERICA米（New Rice for Africa）の農家圃場レベルの種子技術の移転を行うとともに、Africa Rice Initiative（ARI）加盟各国におけるNERICA米の品質試験と栽培技術開発を支援している。また、水産局技術アドバイザーも派遣している。

表-4 我が国の年度別・援助形態別実績（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース）
（年度、単位：億円）

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2001年	—	6.64	1.08 (0.97)
2002年	—	2.08	2.32 (2.29)
2003年	(37.69)	19.98	1.36 (1.35)
2004年	—	7.31	1.05 (1.03)
2005年	—	9.92	2.51
累計	37.62	257.46	26.11

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。また、()内の数値は債務免除額。
4. 2001～2004年度については、日本全体の技術協力事業の実績。2001～2004年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2005年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。

表-5 我が国の対ベナン経済協力実績

（暦年、DAC集計ベース、単位：百万ドル、支出純額）

歴年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2001年	—	6.86	1.40	8.26
2002年	—	3.55	0.98	4.53
2003年	—	4.02	2.25	6.27
2004年	-34.80	45.21	0.74	11.15
2005年	—	16.01	1.85	17.86
累計	-3.14	237.55	22.88	257.27

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額（政府貸付等については、ベナン側の返済金額を差し引いた金額）。
2. 技術協力は、JICAによるもののほか、留学生受入や関係省庁及び地方自治体、公益法人による技術協力を含む。
3. 四捨五入の関係で、合計値が合わない場合がある。

ベナン

表-6 諸外国の対ベナン経済協力実績

(暦年、DAC集計ベース、単位：百万ドル、支出純額)

歴年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2000年	フランス 74.3	米国 29.7	ドイツ 21.7	デンマーク 19.5	イタリア 19.1	6.2	190.5
2001年	フランス 42.5	米国 27.4	デンマーク 22.9	ドイツ 21.9	日本 8.3	8.3	144.5
2002年	フランス 40.5	ドイツ 24.0	デンマーク 23.6	米国 23.4	ベルギー 9.8	4.5	140.1
2003年	フランス 36.8	米国 32.5	ドイツ 31.3	デンマーク 21.4	英国 21.1	6.3	196.1
2004年	フランス 62.9	デンマーク 32.2	米国 27.9	ドイツ 24.5	ベルギー 13.4	11.2	210.3

出典) OECD/DAC

表-7 国際機関の対ベナン経済協力実績

(暦年、DAC集計ベース、単位：百万ドル、支出純額)

歴年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2000年	IDA 30.3	AiDF 10.0	UNDP 3.0	CEC 2.8	UNICEF 2.0	1.2	49.2
2001年	IDA 46.3	CEC 43.4	AiDF 22.1	IFAD 2.1	UNFPA 1.9	12.2	127.9
2002年	CEC 27.9	IDA 20.4	UNFPA 3.6	AiDF 2.9	UNDP 2.8	16.3	73.8
2003年	CEC 51.0	IDA 23.9	AiDF 7.3	UNDP 5.0	IFAD 4.8	5.5	97.5
2004年	CEC 88.7	IDA 36.7	AiDF 31.4	IFAD 6.4	WFP 2.3	2.2	167.7

出典) OECD/DAC

注) 1. 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

2. 四捨五入の関係で、合計値が合わない場合がある。

表-8 我が国の年度別・形態別実績詳細 (円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース)

(年度、単位：億円)

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
00年度までの累計	37.62億円 (内訳は、2005年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html))	211.53億円 (内訳は、2005年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html))	17.95億円 研修員受入 203人 専門家派遣 6人 調査団派遣 154人 機材供与 63.08百万円
2001年	なし	6.64億円 予防接種拡大計画 (3.13) 食糧増産援助 (2.00) 食糧援助 (1.30) 青年・スポーツ・余暇省に対するスポーツ器材供与 (0.21)	1.08億円 (0.97億円) 研修員受入 24人 (24人) 調査団派遣 6人 (4人) 機材供与 3.81百万円 (3.81百万円) 留学生受入 1人
2002年	なし	2.08億円 食糧援助 (2.00) 草の根無償 (2件) (0.08)	2.32億円 (2.29億円) 研修員受入 28人 (27人) 調査団派遣 28人 (28人) 機材供与 0.31百万円 (0.31百万円) 留学生受入 1人
2003年	債務免除 (37.69)	19.98億円 小学校建設計画 (10.33) コトヌ零細漁港開発計画 (1/2) (7.62) 食糧援助 (2.00) 草の根・人間の安全保障無償 (1件) (0.03)	1.36億円 (1.35億円) 研修員受入 29人 (28人) 調査団派遣 19人 (19人) 留学生受入 1人
2004年	なし	7.31億円 第五次村落給水計画 (1/2) (2.12) コトヌ零細漁業開発計画 (2/2) (2.87) 食糧援助 (2.00) 日本NGO支援無償 (1件) (0.10) 草の根・人間の安全保障無償 (5件) (0.22)	1.05億円 (1.03億円) 研修員受入 24人 (23人) 専門家派遣 4人 (4人) 調査団派遣 2人 (2人) 機材供与 21.35百万円 (21.35百万円) 留学生受入 1人 (協力隊派遣) (2人)

年度	円借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2005年	なし	9.92億円 第五次村落給水計画 (2/2) (6.02) 食糧援助 (2.50) 貧困農民支援 (1.40)	2.51億円 研修員受入 34人 調査団派遣 16人 機材供与 38.86百万円 協力隊派遣 8人
2005年 度まで の累計	37.62億円	257.46億円	26.11億円 研修員受入 339人 専門家派遣 10人 調査団派遣 223人 機材供与 127.43百万円 協力隊派遣 10人

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
4. 「貧困農民支援」は、2005年度に「食糧増産援助」を改称したもの。
5. 2001～2004年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2001～2004年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2005年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計については2005年度までにJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
6. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
7. 四捨五入の関係で、累計値が合わない場合がある。